



**MR-02シリーズ  
エンツォフェラーリ**

単にスケールダウンしただけでは、R/Cカーにリアル感が出ない。職人の手による細かな修正がモノをいう。そして、ディテールへのこだわりがリアル感を生み出す。エンツォフェラーリのミラー形状が左右で異なるのは、実車さながら。



**MR-01シリーズ  
フェラーリ360モデナ**

F355から360モデナへとバトンタッチした新世代V8フェラーリ。リトラクタブルヘッドライトを廃止し、複雑な形状のヘッドライトが話題を呼んだ。4つのライトから構成されるヘッドライトは、ミニッツでもしっかり再現されている。

大人のR/Cカー講座 vol.2

開発者のこだわりが生んだ  
フェラーリコレクション。

text: Takashi Koga/Jun e Co.  
photographs: Takashi Shimizu

優美な曲線を用いてデザインされているフェラーリは、見る者ごとごとく魅了してしまう。ワイド&ローのスーパーカースタイルで、空気を切り裂いて走るシャープでエレガントな姿。言葉では説明できない、エモーショナルな部分に訴えかけるオーラがある。それは時代に関係なく、フェラーリのモデルが全車に持ち合わせている特性なのだから恐れ入る。

ミニッツはオモチャでありR/Cカーではあるが、安っぽさがまったくない。実車を精巧に再現した姿は、オモチャの領域を超えた趣味性を強く感じさせてくれる。ミニッツがラインナップするフェラーリは、「フェラーリ」を名乗るに十分過ぎるオーラを放っている。同じミニッツシリーズを並べてみても、フェラーリのミニッツが放つ色気と毒気は、他車の追随を決して許しはしない。

これを実現することは簡単ではなかったという。素人的に考えれば、実車を忠実にスケールダウン

してやればミニッツが出来上がるように思える。だがコピー機を使うように実車を縮小してR/Cカーを作ると、実車を持つ微妙なボデイライン、ひいてはスタイルそのものが崩れてしまうのだとか。そこには匠の業がある。実車から得る印象と同じになるように、型となるボディを幾度となく修正する。もちろんこれは職人の手作業で施し、経験と勤がモノをいう。

ディテールへのこだわりも、ミニッツのリアル感を生み出している重要な要素である。例えばヘッドライトは人間の目と同じように、クルマに表情を与える部分だ。ウインカーレンズは単にオレンジ色に塗装しているだけではない。フェラーリのエンブレムは、虫眼鏡を使わないと「Ferrari」の文字が見えないほど細かい。しかし、ハッキリと書かれている。素材の工夫、妥協しない作りこみがミニッツの細かいパーツから窺える。だから、ずっと眺めていても飽きることはない。ミニッツには「オモチャ」というひと言では片付けられないこだわりがある。



ミニッツレーサーの全長は20cm弱で手のひらに乗るサイズ。プロボと並ぶと一目瞭然だ。電動R/Cカー ミニッツレーサーシリーズプロボ付レディセット 1万6590円~1万7640円。



**フェラーリ575M マラネロ**  
12気筒エンジンを搭載するフロントのロングノーズが特徴的。ミニッツレーサーでもこのフォルムは忠実に再現されていて、実車並みの迫力と美しさを両立。



**フェラーリF50**  
公道を走るF1マシンといわれたF50。F1と同じくエンジンに直接フレームにマウントしているため乗員が受ける振動は物凄い。存在感も群を抜いている。



**フェラーリF355**  
ミニッツレーサーのF355のヘッドライトは2種類標準装備されていて、リトラクタブルが開いているパーツを取り付けることも可能。好みで付け替えられる。



**フェラーリF40**  
実車のF40に装着されるリップスポイラー部分は、ミニッツレーサーでも忠実に再現されている。サイドのエアインテークもダミーではないこだわりようだ。



**フェラーリ512BB**  
この時代のフェラーリが持つホイールアーチ部分の見事な板金職人芸は、ミニッツレーサーでも遜色ない。タイヤのトレッドパターンまで昔のものを再現した。



**フェラーリ246GT ディノ**  
流れるようなボデイラインがファンを魅了する。ミニッツレーサーでも、これはどまで美しいボデイラインを持つモデルはない。メッキパーツの再現もリアルだ。